

# 第1回 日本医療安全推進学会 学術総会

医療の質をハカる

察る：医療を観察し、

測る：測定し、

図る：改善計画をたてる

会期

2025年2月15日(土)～16日(日)

会場

東京大学本郷キャンパス/オンデマンド配信

共同総会長

工藤 篤 (東京科学大学病院 医療安全管理部)

相田 伸二 (京都大学附属病院 医療機材部)

富田 隆 (国際医療福祉大学三田病院 薬剤部)

(対象者) 医療安全の推進に関心のある方。

医科医療安全、歯科医療安全、医薬品安全、医療機器安全、看護安全、リスクマネジメント、品質管理、  
ヒューマンファクターと安全工学、リスクコミュニケーション、臨床コーチング、法行政学、医療経済学、医療経営学、  
情報科学、行動科学、認知科学、疫学・統計、心理学、行動学研究者、病院経営者、病院長、医療行政担当者、  
総括医療安全管理者、医科医療安全管理者、歯科医療安全管理者、医薬品安全管理者、医療機器安全管理者、病理医、臨床医、  
薬剤師、保健師、看護師、訪問看護師などの在宅医療関係者、ケアマネージャー、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、  
臨床工学技士、診療放射線技師、臨床検査技師、院内法務担当者、弁護士、研修医、学生、医療産業従事者、その他医療職の方

連絡先

第1回日本医療安全推進学会学術総会事務局  
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-7-12-102  
(TEL) 03-3817-6770 (FAX) 03-6801-6987  
(Email) 1stjmsmp@mspo.org

**JSMSP**

Japan Society of Medical Safety Promotion

# 目次

ご案内	1
ごあいさつ	5
学会の趣旨・お知らせ（理事会・代議員会・次年度総会）	7
日程表	8
報道関係の方へ	10
交通のご案内	10
会場のご案内	11
飲食について	12
座長・演者へのお知らせとお願い	13
プログラム 2月15日（土）	16
プログラム 2月16日（日）	21
学会認定の「医療安全高度専門家」資格制度について	33
学会認定の「医薬品安全高度専門家」資格制度について	34
学会認定の「看護安全高度専門家」資格制度について	35
機関誌「医療安全推進」について	37

## (オンデマンド配信期間)

期間中は繰り返し視聴可能です。

2025年2月21日(金)～2025年3月16日(日)

### (視聴方法)

- ・オンデマンド配信の視聴方法等は、2025年2月21日までにメールにて参加者へお届けします。
- ・オンデマンド配信は、インターネットに接続可能な機器でご視聴頂けます。

※当日のトラブルや講演者の事情により、一部ご視聴いただけない講演がある場合がございます。

### (必要な機材)

- ・インターネットに接続して、音声を流すことができるPC・スマートフォン等の電子機器。
- ・PDFファイルの閲覧ソフト (例:Acrobat Reader、無料版あり)
- ・ブラウザの動作確認は Google Chrome、Microsoft Edge にて行っております。

(参加申込方法)

オンライン参加申込

<https://forms.gle/RJ7Haq6fwYYZRysH8>

FAX ないし郵送の参加申込

<https://mspo.org/msspb/1stpsyb/register/RegistrationForm.rtf>

(電子版抄録集の URL の通知)

参加費支払済みの方へ電子メールにて事前にお知らせします。

(参加証)

開催 1 週間前頃に電子版参加証を電子メールにてお送りします。  
来場の際、各会場入り口では参加証ないし参加費領収書をご提示ください。

(領収書)

電子版領収書を電子メールにてお送りします。  
PayPal による支払の場合、支払完了時に PayPal より自動送付されるものをお使いください。

(印字版抄録集の配布)

購入希望者に、会場でお渡しいたします。  
オンデマンド視聴のみの購入希望者には、郵送にてお送りいたします。

## 事前参加登録方法

### 1. 事前参加申込締切： 2025年1月15日

※印刷版抄録集の購入を希望の場合は2025年1月10日(金)までに参加登録を完了してください。

### 2. 参加費

	日本医療安全推進学会 の会員 (医師)	日本医療安全推進学会 の会員 (医師以外)	非会員 (医師)	非会員 (医師以外)	学部生
事前参加費 (非課税)	8,000	5,000	12,000	9,000	1,000
当日参加費 (非課税)	10,000	7,000	14,000	11,000	1,000
印刷版抄録集	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000

- ・ お支払を完了された方には、参加証をお送りいたします。
- ・ PayPalによる支払の場合、領収書は支払完了時にPayPalより自動送付されるものをお使いください。
- ・ 参加費には電子版抄録集の購読料を含みます。

### 3. 参加費振込:

支払締切：2025年1月15日までに振込控えをFAXないしメールにてお届けください。

2025年1月16日以降は会場での現金支払をお願いいたします。

(振込先口座)

銀行支店名：みずほ銀行 本郷支店 支店番号：075  
口座番号：普通 4203420 口座名義：JSMSP 総会 (ジェイエスエムエスピーソウカイ)

### 4. カード決済(PayPal):

PayPalを利用したカード決済方法となります。以下のURLよりお支払が可能です。

<https://mspo.org/jsmsp/1stjsmsp/register/index.html>

※支払項目をご選択の上、お支払ください。

※誤った項目を選択し、返金をご希望の場合は支払月末迄に事務局へご連絡ください。

# 第1回 日本医療安全推進学会学術総会

会期： 2025年2月15日(土)～16日(日)  
場所： 東京大学本郷キャンパス

## 【共同総会長】

工藤 篤 (東京科学大学病院 医療安全管理部)  
相田 伸二 (京都大学附属病院 医療機材部)  
富田 隆 (国際医療福祉大学三田病院 薬剤部)

## 【プログラム委員長】

堀田 まゆみ (東海大学医学部附属八王子病院 看護部)

## 【実行委員長】

飛田 結実 (一般社団法人国際医療安全推進機構)

プログラム委員会： 常任理事を除く本学会の理事

組織委員会： 特別会員、代議員、その他

主催  
日本医療安全推進学会

後援  
【官公庁】文部科学省

【学会】一般社団法人国際医療安全推進機構、国際医療リスクマネジメント学会、医療安全心理・行動学会、  
一般社団法人日本脳神経外科学会、公益社団法人日本産科婦人科学会、一般社団法人日本病理学会、日本寄生虫学会、一般社団法人日本衛生学会、  
日本健康学会、一般社団法人日本温泉気候物理医学会、公益社団法人日本小児科学会、公益社団法人日本精神神経学会、公益財団法人日本眼科学会、  
一般社団法人日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会、日本交通医学会、一般社団法人日本アレルギー学会、公益社団法人日本麻酔科学会、  
一般社団法人日本輸血・細胞治療学会、一般社団法人日本農村医学会、一般社団法人日本糖尿病学会、公益社団法人日本リハビリテーション医学会、  
一般社団法人日本呼吸器学会、一般社団法人日本腎臓学会、一般社団法人日本リウマチ学会、公益社団法人日本生体医工学会、  
一般社団法人日本肝臓学会、一般社団法人日本形成外科学会、一般社団法人日本人工臓器学会、  
【専門職団体】公益社団法人日本医師会、公益社団法人日本看護協会、公益社団法人日本薬剤師会、公益社団法人日本歯科衛生士会  
公益社団法人 青森県医師会、一般社団法人 秋田県医師会、公益社団法人 愛知県医師会、公益社団法人 鳥取県医師会  
青森県看護協会、岩手県看護協会、宮城県看護協会、茨城県看護協会、栃木県看護協会、埼玉県看護協会、千葉県看護協会、東京都看護協会、富山県看護協会、  
公益社団法人福井県看護協会、滋賀県看護協会、京都府看護協会、大阪府看護協会、島根県看護協会、広島県看護協会、徳島県看護協会、熊本県看護協会  
一般社団法人千葉県病院薬剤師会、岡山県病院薬剤師会  
一般社団法人 和歌山県臨床工学技士会、一般社団法人 奈良県臨床工学技士会、一般社団法人 京都府臨床工学技士会

工藤 篤

東京科学大学病院 医療安全管理部  
国際医療安全推進機構 理事



医療の現場で起こるさまざまな問題について、机上の空論ではなく、実際にどのような対策を立てていくかを真摯に議論する場であると考えています。医療現場では対処に困る問題が山積みですが、技術革新の影で何が問題であるか気づかないこともあります。本学会は多くの医療者が気づかない本質的な問題を指摘し、病院のシステム上の欠陥を拾い上げ、病院の経営を改善し、最終的には我が国の医療体制の改善に貢献することが重要です。この第一回学術集会では様々な「はかる」を勉強したいと考えます。第一に全国の医療施設がどのような方法で行った医療行為の質を客観的に測定しているのか、あるいは測定する試みを行っているのか、第二にそこで得た結果を医療機関の経営にどのように利用しているのか、第三にそれらの測定結果が患者の安全や医学の進歩にどれだけ貢献する可能性を秘めているかということです。新しい医療安全管理のアイデアを勉強できればと思います。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

相田 伸二

京都大学医学部附属病院 医療器材部 臨床工学技師長



能登半島地震により、被災されました皆様におかれましては、心よりお見舞い申し上げます。

日々変化する世界情勢におきまして、安心安全な医療を持続するには、国内だけではなく海外の様々な情報においても、これまで以上に日頃から着目しておかなければならない時代となりました。日本の医療にとりましては、医師の働き方改革におけるタスク・シフト/シェア、自然災害時の災害医療など、医療安全に関わる課題は多くございます。このような医療現場の新たな環境や体制を乗り越えるためには、さらなる多職種連携が必要ではないかと考えております。記念すべき第1回日本医療安全推進学会学術総会におきましては、様々な職種や立場の方とのディスカッションの場を設け、明日への医療安全に繋がりたいと考えております。垣根を越えたコミュニケーションが、さらなる医療安全文化の第一歩となるよう進めさせていただきますので、ぜひ皆様の参加をお待ちしております。

富田 隆

国際医療福祉大学 三田病院 薬剤部長  
医療法人財団 順和会 薬剤部長  
国際医療福祉大学 薬学部 教授



「安全」とは何でしょうか？国際的には、「許容できないリスクがないこと」とされ、「安全」はリスクを経由して定義されているのが分かります。そのため、医療従事者は、医療上のリスクを把握する仕組みを構築し、対策を講じた上でも排除できないリスクについては、それらを十分に理解した上で管理しなければなりません。このような状況が継続的に行われている状態、つまり、継続してリスクと正しく向き合った状態が「安全」とも考えられます。

医療上の「安全」の目的が医療事故の防止とすれば、医療上の「安心」の目的は患者の心を安らげることと考えられます。医療従事者からのヒヤリハット報告、改善策提案等は、医療従事者個人の意思が影響しやすく、主観的となりやすいため、医療上の「安全」には客観性が必要です。一方、医療上の「安心」は患者個々の心の持ちようで度合いが異なる主観的なものです。よって、医療従事者が患者に「安心」を示すためには、医療従事者個人の主観的なものではない、医療上の客観的な「安全」をベースとした、患者に説得力をもたせられる論理性が必要です。

医療従事者にとっての主観的な「安全」を主張しても、多くの患者は納得しません。医療従事者が患者に「安心」を示すために、第1回日本医療安全推進学会学術総会を通じ、医療上の「安全」を再考し、医療安全を推進する機会になれば幸いです。本学術総会の成功にむけて、先生方のご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。



## 会場のご案内

東京大学本郷キャンパス。(東京都文京区本郷7-3-1)

- (第1会場) 医学部1号館3階講堂
- (第2会場) 医学部1号館1階講堂
- (第3会場) 医学部2号館1階講堂
- (第4会場) 医学部2号館3階講堂



医学部2号館 医学部1号館

## 学会の趣旨

本学会は医療安全推進の向上のための学術団体で、一般社団法人医療安全推進機構が主催します。

対象分野は医療事故・ミス、大規模災害およびパンデミック感染症における医療の安全を推進し、より良い医療安全文化を有する医療を構築します。医師、薬剤師、看護師、臨床工学技士、医療事務担当者、学生など広く様々な方々と交流を促進します。

一般社団法人の目的である社会に開かれた民主的な団体運営を行うために、理事長役職定年制(2年)および理事役職定年制(6年周期)を設置して理事会構成員を絶えず活性化することが不可欠です。これらによって日本社会の広範囲から様々な理事長と理事を登用し、社会の新しいニーズに絶えず対応できる新しい人材で学会運営を可能にします。

## 理事会・代議員大会のお知らせ

### 1. 定例理事会

- ・ 会期: 2025年2月15日(土) 12:10～12:50

### 2. 定例代議員大会 ※理事の方もご出席ください

- ・ 会期: 2025年2月16日(日) 12:10～12:50

## 第2回 日本医療安全推進学会学術総会のお知らせ

会期: 2025年9月27日(土)～9月28日(日)

場所: 東京大学医学部本郷キャンパス

共同総会長: 中村 京太 (横浜市立大学附属市民総合医療センター医療の質・安全管理部)

田仲 浩平 (東京工科大学医療保健学部臨床工学科)

近藤 匡慶 (日本医科大学多摩永山病院薬剤部)

ホームページ: <https://mspo.org/jsmsp/2ndjsmsp/>

日程表 2025年2月15日(土)

会場	第1会場	第2会場
場所	医学部1号館3階講堂	医学部1号館1階講堂
9:00		
	9:00～受付開始 東京大学医学部1号館3階大講堂前	
9:30		
10:00	開会式 開会式・学会概要説明 来賓挨拶: 日本医師会副会長	
10:30	ELO1 教育講演 Safety-IIIに基づく人が創る安全 一人の安全へのポジティブな寄与の重要性— 演者: 高橋 信 座長: 田仲 浩平	SN03 シンポジウム 医療安全教育の実際 座長: 堀田 まゆみ
11:00	SN01 シンポジウム	
11:30	医薬品の適正使用と医薬品管理 座長: 富田 隆	
12:00		
12:30		12:10-12:50 定例理事会 ※第8セミナー室にて
13:00		
13:30	SPO1 招聘講演 近代地震学100年、災害軽減に向けて 演者: 古村 孝志 座長: 森下 幸治	NP01 一般演題 座長: 大原 志歩
14:00	PN01 パネル討論会	
14:30	薬剤に関連した医療事故を マネジメントするためには 座長: 林 太祐	PN02 パネル討論会 小児外科における信頼関係構築のあり方 座長: 横井 暁子
15:00		
15:30		
16:00	SN02 シンポジウム	SN04 シンポジウム
16:30	災害時の医療安全 座長: 堀田 まゆみ	医療現場の生体情報モニタ運用における 医療安全推進に向けた取り組み ～生体情報モニタの管理と早期警戒システムの役割～ 座長: 大原 志歩、相田 伸二
17:00		
	1日目閉会	
18:00	懇親会 東京大学内山上会館レストランにて	

※すでにお知らせのとおり役員の方々は会期中に委員会・部会の集会が予定されています。

日程表 2025年2月15日(土)

会場	第3会場	第4会場
場所	医学部2号館1階講堂	医学部2号館3階講堂
9:00		
9:30		
10:00		
10:30		
11:00		
11:30		
12:00		
12:30		
13:00		
13:30		
14:00	SPO2 多職種連携シンポジウム	
14:30	多職種連携シンポジウム 座長：納谷幸男、遠藤 純男	
15:00		
15:30		
16:00		
16:30		
17:00		
18:00		

※すでにお知らせのとおり役員の方々は会期中に委員会・部会の集会が予定されています。

日程表 2025年2月16日(日)

会場	第1会場	第2会場
場所	医学部1号館3階講堂	医学部1号館1階講堂
8:00	8:30～受付開始	8:30～受付開始
9:00		
9:30	EL02 教育講演 ハザードス・ドラッグ曝露対策の必要性 と院内で取り組むための考え方 演者: 岩本 寿美代 座長: 富田 隆	PN04 パネル討論会  麻酔科における臨床安全の現状と課題 座長: 鹿瀬 陽一、虻川 有香子
10:00	EL03 教育講演 高齢患者の薬物療法に潜む落とし穴 演者: 富田 隆	
10:30		
11:00	SN05 シンポジウム  手術動画の院内の取り扱いについて 座長: 本間 寛	PN05 パネル討論会  薬剤の使用・供給をめぐる最近の問題に関して 座長: 四柳 宏
11:30		
12:00		
12:30		
13:00		
13:30	PN03 パネル討論会  医療安全の推進におけるアウトカムを考える 座長: 長田 恵子	NP02 一般演題 座長: 藤田 眞幸
14:00		
14:30		NP03 一般演題 座長: 栗原 慎太郎
15:00	SN06 シンポジウム  医療安全指標 座長: 工藤 篤	
15:30		PN06 パネル討論会  医薬品安全管理をハカル ～業務を観察し、測定し、改善計画をたてる～ 座長: 鈴木 高弘
16:00		
16:30	SN07 シンポジウム  臨床工学における医療安全推進活動 ～CEであることの優位性と課題検証～ 座長: 田島 志緒里、藤井 耕	
17:00		
17:30	閉会式・次大会長挨拶	

※すでにお知らせのとおり役員の方々は会期中に委員会・部会の集会在予定されています。

日程表 2025年2月16日(日)

会場	第3会場	第4会場
場所	医学部2号館1階講堂	医学部2号館3階講堂
8:00		
9:00		
9:30		
10:00		
10:30		
11:00		
11:30		
12:00		
12:30		
13:00		
13:30		SPO4 市民公開講座
14:00		市民公開講座 演者: 木下 正一郎、宮脇 正和
14:30	SPO3 代議員交流会	※どなたでも参加できます
15:00	代議員交流会 座長: 田仲 浩平、西脇 邦彦	
15:30		
16:00		
16:30		
17:00		
17:30		

※すでにお知らせのとおり役員の方々は会期中に委員会・部会の集会が予定されています。

## 報道関係の方へ

### 1. 報道機関、出版社の取材記者の方へ

- ・ 参加費は無料で、事前申込は一切不要です。
- ・ 抄録集(電子版)をお知らせしますので、事務局へお問い合わせください。
- ・ 抄録集(印字版)をご希望の際には、1部2,000円にて購入いただけます。
- ・ 本学術総会の開催ついて貴社を通じて広く社会へ広報していただけますと幸いです。

## 展示企業の方へ

### 1. 展示場所

- ・ 東京大学医学部1号館3階ロビーです。
- ・ 各企業の展示は学会から指定された場所を使用してください。配置表を別送します。

### 2. 展示時間

- ・ 9:00～17:30

### 3. 資材の事前搬入

- ・ 2月14日(金)17:00～18:00。医学部1号館3階にて保管いただけます。

### 4. タクシーや自家用車での搬入の方法

- ・ 東大構内へは竜岡門からお入りください。
- ・ 東大構内では無料駐車場はありません。(30分まで無料・以降200円/20分、24時間ごとに最大3,000円。費用は自費負担。)

### 5. 貸出物

- ・ 展示ブース1小間は、幅160cm×奥行150cmです。以下貸出が可能です。
  - ・ テーブル2台、椅子2脚
  - ・ 電源:壁コンセントがあります。別送の配置表に明記します。利用される場合は10メートル延長コードと電源タップを持参してください。
  - ・ その他(バックパネル等)はご自身でご用意ください。

### 6. 昼食

- ・ 徒歩1分の安田講堂前広場の地下に学食と生協があります。費用は自費負担。

### 7. インターネット

- ・ 会場ではゲストWi-Fiをお使いいただけます。詳細は下記のリンクよりご確認ください。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/dics/ja/wlan.html>

## 交通のご案内



### 最寄り駅からのアクセス

- 本郷三丁目駅（地下鉄丸の内線）より徒歩8分
- 本郷三丁目駅（地下鉄大江戸線）より徒歩6分
- 湯島駅又は根津駅（地下鉄千代田線）より徒歩8分
- 東大前駅（地下鉄南北線）より徒歩1分
- 春日駅（地下鉄三田線）より徒歩10分

## 懇親会

2025年2月15日（土） 18:00 ~ 20:00

レストラン 御殿

<https://goten1951.base.shop/>

〒113-0033 東京都文京区本郷 5-24-2 グレースイマビル 1階

TEL : 03-3818-8888

東京メトロ丸の内線・都営地下鉄大江戸線  
「本郷三丁目駅」4番出口より徒歩1分



## 座長・演者へのお知らせとお願い

### 1. 座長の方へ

- ・ 座長の受付はございません。ご担当セッションの開始10分前までにご入場ください。
- ・ 進行は時間厳守でお願いいたします。アナウンス係の準備はございませんので、時間になりましたら開始してください。

### 2. 招聘講演および教育講演の発表の方法

- ・ 各セッション開始の10分前までに、次演者席（各会場右側前方）にお越しください。

### 3. シンポジウムの発表の方法

- ・ 講演は1人の発表者につき原則15分です。座長からの指示がある場合は別途ご対応ください。
- ・ 各セッション開始の10分前までに、次演者席（各会場右側前方）にお越しください

### 4. パネル討論会の発表の方法

- ・ 講演は1人の発表者につき原則15分です。座長からの指示がある場合は別途ご対応ください。
- ・ 各セッション開始の10分前までに、次演者席（各会場右側前方）にお越しください。

### 5. 一般演題の発表の方法

- ・ 一般演題(口演)は1題10分(質疑応答2分含む)です。
- ・ 各セッション開始の10分前までに、次演者席（各会場右側前方）にお越しください。

### 6. 発表形式について

- ・ パワーポイント用のデータを保管したUSBメモリをご持参ください。
- ・ USBメモリをご自身でPCに装着したのちご自身でご操作ください。
- ・ リモコン操作器具をご用意いたします。
- ・ PC(Windows7ないしWindows10)一台をご用意できます。
- ・ マッキントッシュPCをご持参の場合は、モニター(HDMI)との接続ケーブルをご持参ください。

### 7. 学会賞

#### 医療安全文化促進賞(優秀賞)

- … 一般演題から若干数を選考・授与します。選考は総会長・プログラム委員によります。  
対象者へ学会機関誌「医療安全推進」に受賞論文としての寄稿を依頼します。

#### 医療安全文化促進賞(功労賞)

- … 発表演題数に応じて授与します。

## プログラム 2月15日(土)

(第1会場) 2025年2月15日

東京大学医学部1号館3階大講堂

### EL01: 教育講演

10:20-11:00

テーマ: Safety-IIに基づく人が創る安全 一人の安全へのポジティブな寄与の重要性

座長: 田仲 浩平 (東京工科大学 片柳研究所  
デジタルヘルス・イノベーションセンター センター長 / 教授  
医療保健学部 臨床工学科、大学院医療技術学研究科)

演者: 高橋 信 (東北大学大学院工学研究科 技術社会システム専攻)

### SN01: シンポジウム

11:00-12:00

テーマ: 医薬品の適正使用と医薬品管理

座長: 富田 隆 (国際医療福祉大学成田薬学部教授、国際医療福祉大学三田病院薬剤部長、  
医療法人財団順和会薬剤部長)

(SN01-1) 服薬支援を考えるー適切な服薬支援策とはー

新田 信一 (株式会社龍角散 薬剤師)

(SN01-2) がん薬物療法の副作用マネジメント

雨宮 貴洋 (国際医療福祉大学成田薬学部、医療法人財団順和会山王病院)

### SP01: 招請講演

13:00-13:40

テーマ: 近代地震学100年、災害軽減に向けて

座長: 森下 幸治 (東京科学大学大学院医歯学総合研究科 救急災害医学分野 教授、  
東京科学大学病院 病院長補佐、救命救急センター (ERセンター) センター長  
Acute Care Surgery 部門長、医療安全管理部 副部長)

演者: 古村 孝志 (東京大学地震研究所・教授)

## PN01 : パネル討論会

13:50-15:40

テーマ: 薬剤に関連した医療事故をマネジメントするためには

座長: 林 太祐 (日本医科大学多摩永山病院 薬剤部)

(PN01-1) 医療安全における薬剤師の役割 ～高濃度カリウム、抗血栓薬再開への取り組み～

松本 高広 (東邦大学医療センター大森病院 薬剤部長)

(PN01-2) 医療安全に必要なノンテクニカルスキル

土屋 裕伴 (AMG 上尾中央総合病院 薬剤部 副部長)

(PN01-3) 薬剤に関連したクライシスマネジメントを考える

近藤 匡慶 (日本医科大学多摩永山病院 薬剤部)

(PN01-4) 医薬品事故後の対応の留意点～院内事故調査委員会外部委員等を経験して～

舟越 亮寛 (医療法人鉄蕉会医療管理本部薬剤管理部部長・治験管理センター長  
/医療法人鉄蕉会亀田総合病院 薬剤部部長)

## SN02 : シンポジウム

15:50-17:10

テーマ: 災害時の医療安全

座長: 堀田 まゆみ (東海大学医学部附属八王子病院 看護部)

(SN02-1) 能登半島地震における災害支援の語りから考える医療安全

布施 淳子 (山形大学大学院医学系研究科 基礎看護学 教授)

(SN02-2) 災害時の医療安全～経験と教訓と今後の課題～

山中 雄一 (京都大学医学部附属病院 副看護師長 クリティカルケア認定看護師)

(SN02-3) 医療機関における大規模自然災害と感染制御

呉 禮媛 (東海大学医学部附属八王子病院 院内感染対策室 感染管理認定看護師  
感染症看護専門看護師)

(第2会場) 2025年2月15日

東京大学医学部1号館1階講堂

## SN03: シンポジウム

11:20-11:50

テーマ: 医療安全教育の実際

座長: 堀田 まゆみ (東海大学医学部付属八王子病院 看護部)

(SN03-1) 医療安全推進者への医療安全教育の必要性

新村 美佐香 (医療法人五星会菊名記念病院 医療安全管理室)

(SN03-2) 看護学生への医療安全教育

堀田 まゆみ (東海大学医学部付属八王子病院 看護部)

## NP01: 一般演題1

13:00-14:00

座長: 大原 志歩 (神奈川県済生会 横浜市東部病院 TQMセンター 医療安全管理室 副室長)

13:00-13:10(NP01-1) 高濃度カリウム製剤における安全な管理体制の構築

青木 勇樹 (聖隷浜松病院 薬剤部)

13:10-13:20(NP01-2) 小児心臓手術の周術期プレパレーションツールを使用した医療安全への取り組み

瀬尾 真理子、根本 真依子、一石 亜美、鷺谷 瞳、竹内 美穂、長田 真理子

(筑波大学附属病院 看護部)

13:20-13:30(NP01-3) 看護師クリニカルラダーレベル別によるせん妄評価の実態調査

佐々木 仁美 1) 迫田典子 2) 池田尚人 3)

(1) 昭和大学保険医療学部看護学科、2) 獨協医科大学 看護学部、3) 昭和大学江東豊洲病院)

13:30-13:40(NP01-4) 看護学生における二次救命処置講習の教育効果

迫田 典子 1)、佐々木 仁美 2)、池田 尚人 3)

(1) 獨協医科大学看護学部、2) 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院、3) 昭和大学江東豊洲病院)

13:40-13:50(NP01-5) 肝炎ウイルス検査陽性者の拾い上げに対する取り組み

長田 亮介 (JA長野厚生連 北信総合病院 医療安全管理室)

13:50-14:00(NP01-6) 医療現場におけるインシデント報告の意識改革と報告件数の増加に関する取り組み

宮本 直武 (土別市立病院 診療技術部診療放射線科 兼 医療安全管理室)

## PN02 : パネル討論会

14:10-15:30

テーマ: 小児外科における信頼関係構築のあり方

座長: 横井 暁子 (兵庫県立こども病院小児外科)

(PN02-1) 小児領域におけるインフォームドコンセントの考え方

世川 修 (東京女子医科大学病院 小児外科、医療安全科)

(PN02-2) 合併症や事故が発生したあとの信頼関係構築  
: 医療安全管理および小児外科の立場から

矢内 俊裕 (茨城県立こども病院 小児外科、小児泌尿器科)

(PN02-3) 信頼構築に向けた医療安全の役割: 当院の過去3年を振り返って

古賀 義法 (久留米大学外科学講座小児外科部門)

(PN02-4) MSWの視点から小児外科における信頼関係構築のあり方を考える

庵原 美香 (花園大学社会福祉学科)

## SN04 : シンポジウム

15:40-17:00

テーマ: 医療現場の生体情報モニタ運用における医療安全推進に向けた取り組み  
～生体情報モニタの管理と早期警戒システムの役割～

座長: 大原 志歩 (神奈川県済生会横浜市東部病院 TQMセンター 医療安全管理室 副室長)

相田 伸二 (京都大学医学部附属病院 医療器材部 臨床工学技師長)

(SN04-1) 生体情報モニタのアラーム管理における MACT による取り組み

井口 新一 (医仁会武田総合病院 臨床工学科 係長)

(SN04-2) 医療安全管理室におけるアラーム適正化に向けた試み

山口 智史 (NTT 東日本関東病院 医療安全管理室 専従医療安全管理担当者 臨床工学技士)

(SN04-3) 早期警戒システム構築と運用

善村 夏代 (NTT 東日本関東病院 看護部 副看護部長)

(第3会場) 2025年2月15日

東京大学医学部2号館1階講堂

## SP02: 多職種連携シンポジウム

13:30-15:30

目的: 多職種連携による医療安全の推進のあり方を検討する

座長: 納谷 幸男 (帝京大学ちば総合医療センター安全管理部、医師)

遠藤 純男 (大和徳洲会病院医療安全管理部、医師)

シンポジスト:

納谷 幸男 (帝京大学ちば総合医療センター安全管理部、医師)

遠藤 純男 (大和徳洲会病院医療安全管理部、医師)

庵原 美香 (花園大学社会福祉学部社会福祉学科、講師)

虻川 有香子 (東京慈恵会医科大学附属病院麻酔科、医師)

今中 翔一 (帝京大学医学部附属病院薬剤部)

堀田 まゆみ (東海大学医学部附属八王子病院、看護部)

岩尾 誠也 (宇佐高田医師会病院、理学療法士)

総合討論会 30分

プログラム 2月16日(日)

(第1会場) 2025年2月16日

東京大学医学部1号館3階大講堂

EL02: 教育講演

9:00-9:40

テーマ: ハザードス・ドラッグ曝露対策の必要性和院内で取り組むための考え方

座長: 富田 隆 (国際医療福祉大学成田薬学部教授、国際医療福祉大学三田病院薬剤部長、  
医療法人財団順和会薬剤部長)

演者: 岩本 寿美代 (日本ベクトン・ディッキンソン株式会社 / 大阪ブレストクリニック)

EL03: 教育講演

9:50-10:20

テーマ: 高齢患者の薬物療法に潜む落とし穴

演者: 富田 隆 (国際医療福祉大学成田薬学部教授、国際医療福祉大学三田病院薬剤部長、  
医療法人財団順和会薬剤部長)

## SN05 : シンポジウム

10:30-12:00

テーマ: 手術動画の院内の取り扱いについて

座長: 本間 覚 (国際医療福祉大学)

(SN05-1) 事例調査からみた手術ビデオの位置づけ

和田 哲郎 (筑波大学附属病院医療安全管理部)

(SN05-2) 当院における手術動画管理と問題点

落合 秀人 (浜松医療センター 消化器外科 医療安全管理部)

(SN05-3) 京大病院における術中映像データの取り扱いと今後の展開

山本 豪志朗 (京都大学医学部附属病院 先制医療・生活習慣病研究センター)

(SN05-4) 手術動画の取得・保管・利用などについての法的検討

坂本 真史 (国際医療福祉大学成田薬学部教授)

(SN05-5) 大学病院における手術動画の扱い

工藤 篤 (東京科学大学病院 医療安全管理部)

## PN03 : パネル討論会

13:00-14:20

テーマ: 医療安全の推進におけるアウトカムを考える

座長: 長田 恵子 (東京医療保健大学立川看護学部)

(PN03-1) 医療の質向上にむけた病院管理者の医療安全推進活動へのとりくみ

宇治原 誠 (独立行政法人国立病院機構横浜医療センター 院長)

(PN03-2) 臨床と大学との情報共有から医療安全における看護師の基礎教育を考える

堀田 昇吾 (東京医療保健大学立川看護学部 講師)

(PN03-3) 訪問看護事業所の医療安全推進に関する実践から、心理的安全性を考える

金坂 宇将 (ケアプロ在宅医療株式会社 代表取締役)



## SN06 : シンポジウム

14:30-15:50

テーマ: 医療安全指標

座長: 工藤 篤 (東京科学大学病院 医療安全管理部)

(SN06-1) 国立大学医療安全 QI ワーキングによる医療の質向上への取り組み: 島根大学

深見 達弥 (島根大学医学部附属病院 医療安全管理部)

(SN06-2) 医療安全 QI を活用するにあたり何が有用で何が問題なのか?

熊田 恵介 (岐阜大学医学部附属病院 医療安全管理室)

(SN06-3) 医療安全 QI を活用して院内の質改善活動を進めるために

大石 裕子 (群馬大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部)

(SN06-4) 医療安全指標の計測と可視化の取り組み

中部 貴央 (東京大学医学部附属病院 国立大学病院データベースセンター)

(SN06-5) 東京科学大学の医療を可視化する i-Kashika

鳥羽 三佳代 (東京科学大学病院 医療安全管理部)

## SN07 : シンポジウム

16:00-17:00

テーマ: 臨床工学における医療安全推進活動 ～CEであることの優位性と課題検証～

座長: 田島 志緒里 (名古屋市立大学病院 診療技術部臨床工学技術科・技士長)

藤井 耕 (京都民医連あすかい病院 医療安全管理室・室長)

(SN07-1) 臨床工学技士の医療安全活動参画の拡大に向けて

山口 智史 (NTT 東日本関東病院 医療安全管理室・専従医療安全管理者)

(SN07-2) 臨床工学の医療安全推進活動

村木 裕介 (医療法人清仁会シミズ病院 医療安全管理室・専任医療安全管理者)

(SN07-3) 臨床工学技士が医療安全に携わる優位性と課題

小山 和彦 (京都岡本記念病院 医療安全管理室 副室長・臨床工学部副部長)

## 閉会式・次大会長挨拶

17:00-17:30

(第2会場) 2025年2月16日  
東京大学医学部1号館1階講堂

PN04 : パネル討論会

9:00-10:20

テーマ: 麻酔科における臨床安全の現状と課題

座長: 鹿瀬 陽一 (東京慈恵医科大学附属柏病院麻酔科)

虻川 有香子 (東京慈恵会医科大学附属病院)

(PN04-1) WHO 安全な手術のためのガイドラインをもとに当院における取り組みとHCUの整備について

畔柳 綾 (埼玉医療センター麻酔科)

(PN04-2) 高槻病院における医療安全と麻酔科業務

土居 ゆみ (高槻病院 小児周術期センター)

(PN04-3) 東京慈恵会医科大学附属病院が取り組む手術室での医療安全

小池 正嘉 (東京慈恵会医科大学麻酔科学講座)

(PN04-4) 北里大学病院の内視鏡鎮静の取り組み

松田 弘美 (北里大学医学部麻酔科)

PN05 : パネル討論会

10:30-11:50

テーマ: 薬剤の使用・供給をめぐる最近の問題に関して

座長: 四柳 宏 (東京大学医科学研究所附属病院感染免疫内科)

(PN05-1) 基調講演: 薬剤の適正使用・安定供給をめぐる問題

四柳 宏 (東京大学医科学研究所附属病院感染免疫内科)

(PN05-2) 薬剤の確保に現場はどのように対応しているのか

大幸 淳 (社会福祉法人 恩賜財団 済生会横浜市東部病院 薬剤部)

## PN05 : パネル討論会 (つづき)

(PN05-3) AMRを推進するために何が必要なのか

堤 武也 (東京大学医学部附属病院感染症内科)

(PN05-4) 高額医薬品を使う上での問題点

高橋 昌也 (常陸大宮済生会病院 薬剤科)

## NP02 : 一般演題 2

13:00-13:50

座長: 藤田 眞幸 (慶應義塾大学医学部 法医学教室)

13:00-13:10(NP02-1) Employee Relations (院内広報) で高める 医療安全活動の重要性

藤井 耕 (京都民医連あすかい病院・医療安全管理室)

13:10-13:20(NP02-2) 臨地実習に向けた医療安全教育の実態に関する文献検討

徳野 尚且 (人間総合科学大学保健医療学部看護学科)

13:20-13:30(NP02-3) 医療安全の目標

久田 真理子 (日本医師会)

13:30-13:40(NP02-4) 股関節置換術患者における周術期口腔機能管理の実施状況と  
そのアウトカムについての検討

鳥羽 三佳代 1)2)、森脇 睦子 1)、山田 賢太郎 3)、工藤 篤 2)4)、大川 淳 5)、伏見 清秀 6)

(1) 東京科学大学病院 クオリティ・マネジメント・センター、2) 東京科学大学病院 医療安全管理部、

3) 東京科学大学 整形外科、4) 東京科学大学 医療安全管理学、5) 横浜市立みなと赤十字病院、

6) 東京科学大学 医療政策情報学)

13:40-13:50(NP02-5) 新型コロナウイルス感染症が現場の診療に与えた影響

伊地知 圭 (MSPO 国際医療安全高等教育院)

## NP03 : 一般演題 3

14:00-15:00

座長: 栗原 慎太郎 (長崎大学病院 安全管理部)

### 14:00-14:10(NP03-1) 生体情報モニタ活用率の可視化による医療安全の向上

田島 志緒里 (名古屋市立大学病院 臨床工学室)

### 14:10-14:20(NP03-2) 頸椎前方手術後の気道閉塞に対する医療従事者の action protocol の提案と実践

山田 賢太郎 1)、工藤 篤 2)、吉井 俊貴 1)、橋本 淳 1)、小沼 博明 1)、江川 聡 3)、松倉 遊 1)  
平井 高志 1)、大川 淳 4)

(1) 東京科学大学 整形外科 2) 東京科学大学 医療安全管理学

3) 東京科学大学 整形外傷外科治療開発講座 4) 横浜市立みなと赤十字病院)

### 14:20-14:30(NP03-3) 不眠・不穏時における必要時指示の統一による対応改善と心理的安全性の向上

宮本 直武 (土別市立病院 診療技術部診療放射線科 兼 医療安全管理室)

### 14:30-14:40(NP03-4) 病院歯科口腔外科外来におけるインシデント報告とその取り組み

高木 純一郎 (石川県立中央病院・歯科口腔外科)

### 14:40-14:50(NP03-5) 救急搬送困難症例における画像診断と読影レポート結果の伝え方 ～当院における現状と対策～

中川 麗 (JR 札幌病院プライマル科)

### 14:50-15:00(NP03-6) 災害・急変患者発生時における病院敷地内でのサブストレッチャーの運用と課題

原島 瑞葵 (東京科学大学病院 救命救急センター)

## PN06 : パネル討論会

15:10-16:30

テーマ: 医薬品安全管理をハカル ～ 業務を観察し、測定し、改善計画をたてる ～

座長: 鈴木 高弘 (横浜薬科大学医薬品安全管理)

### (PN06-1) 病院における医薬品安全管理をハカル (仮題)

伊東 俊雅 (東京女子医科大学附属足立医療センター薬剤部、医薬品安全管理者)

### (PN06-2) 保険薬局における医薬品安全管理をハカル

前田 永都 (株式会社トラストファーマシー 人事部)

### (PN06-3) 医療DX推進者からみた医薬品安全管理

岸野 友紀 (株式会社 ファルモ 学術研究担当 薬剤師、h-MBA、JADA 承認 Educator)

(第3会場) 2025年2月16日

東京大学医学部2号館1階講堂

### SP03: 代議員交流会

14:00-16:15

目的: 今後の取り組み・抱負を紹介する

座長: 田仲 浩平 (東京工科大学医療機器)  
西脇 邦彦 (市立稚内病院副院長)

シンポジスト:

田仲 浩平 (東京工科大学医療機器)  
北野 達也 (星城大学 経営学部 健康マネジメント系 医療マネジメント)  
近藤 匡慶 (日本医科大学多摩永山病院 薬剤部)  
手塚 剛彦 (愛知医科大学病院薬剤部)  
横井 暁子 (兵庫県立こども病院小児外科)  
西脇 邦彦 (市立稚内病院副院長)  
木村 由紀 (長崎大学病院看護部)  
江坂 竜二 (上山病院事務)

(第4会場) 2025年2月16日

東京大学医学部2号館3階講堂

### SP04: 市民公開講座

13:00-15:00

テーマ: 患者の立場で医療安全を考える

座長: 木下 正一郎 (きのした法律事務所・所長)

(SP04-1) 医療事故被害者に遭った本人・家族に寄り添った経験から医療者に期待すること

木下 正一郎 (きのした法律事務所・所長)

(SP04-2) 医療事故調査制度の現状と課題 ～医療事故被害者の立場から～

宮脇 正和 (医療過誤原告の会・会長)

きれいをクリエイト  
ARBOS



素早く泡立ち、  
サラッと流れる泡で  
すっきり、やさしい  
洗い上がり

# アルボナス<sup>TM</sup> 泡ハンドソープN

Foam handwash

弱酸性

何度も手洗いを繰り返す医療従事者の手荒れに配慮しました。

- ・肌と同じ弱酸性の泡ハンドソープです。
- ・保湿成分グリセリン配合。
- ・泡でやさしく洗いあげます。

販売名 弱酸性泡ハンドソープN

成分 水、グリセリン、ラウレス硫酸Na、ココミドDEA、  
ココアンホ酢酸Na、クエン酸、安息香酸Na、  
フェノキシエタノール、EDTA-4Na



環境対応・減容ボトル採用

減容時

減容時

株式会社アルボース

<https://www.arbos.co.jp/>

大阪市中央区備後町2丁目4番9号(日本精化ビル7F) TEL.06-6204-4466





# アンメットニーズに応える ノーベルファーマ

**Nobelpharma**  
ノーベルファーマ株式会社

必要なのに顧みられない医薬品・医療機器の提供を通して、  
社会に貢献する



光線力学診断用剤

処方箋医薬品<sup>(※1)</sup> 薬価基準収載

## アラベル<sup>®</sup>内用剤 1.5g<sup>1)</sup>

アミノプリン酸塩

製造販売元 ノーベルファーマ株式会社

未熟児腸管閉塞症治療剤

創薬、処方箋医薬品<sup>(※1)</sup> 薬価基準収載

## インダシン<sup>®</sup> 静注用 1mg<sup>1)</sup>

静注用インドメタシンナトリウム

製造販売元 ノーベルファーマ株式会社

抗腫瘍性抗生物質

創薬、処方箋医薬品<sup>(※1)</sup> 薬価基準収載

## コスメゲン<sup>®</sup> 静注用 0.5mg<sup>1)</sup>

注射用アクチノマイシンD

製造販売元 ノーベルファーマ株式会社

抗悪性腫瘍剤

創薬、処方箋医薬品<sup>(※1)</sup> 薬価基準収載

## ザノサー<sup>®</sup> 点滴静注用 1g<sup>1)</sup>

注射用ストレプトゾシン

製造販売元 ノーベルファーマ株式会社

月経困難症治療剤

処方箋医薬品<sup>(※1)</sup> 薬価基準収載

## ジェミーナ<sup>®</sup> 配合錠<sup>1,2)</sup>

レボノルゲストレル・エチニルエストラジオール配合錠

製造販売元 ノーベルファーマ株式会社  
製造 必ずがく製薬株式会社

抗けいれん剤

創薬、向精神薬(第三種)、処方箋医薬品<sup>(※1)</sup>、習慣性医薬品<sup>(※2)</sup> 薬価基準収載

## ノーベルバル<sup>®</sup> 静注用 250mg<sup>1)</sup>

フェノバルビタールナトリウム凍結乾燥剤

製造販売元 ノーベルファーマ株式会社

ウィルソン病治療剤(銅吸収阻害剤)、低血圧血症治療剤

創薬、処方箋医薬品<sup>(※1)</sup> 薬価基準収載

## ノベルジン<sup>®</sup> 錠 25mg・50mg<sup>1)</sup>

ノベルジン

製造販売元 ノーベルファーマ株式会社

## ノベルジン<sup>®</sup> 顆粒 5%<sup>1)</sup>

酢酸亜鉛水和物製剤

製造販売元 ノーベルファーマ株式会社

抗けいれん剤

創薬、処方箋医薬品<sup>(※1)</sup> 薬価基準収載

## ホストイン<sup>®</sup> 静注 750mg<sup>1)</sup>

ホスフェニトインナトリウム注射液

製造販売元 ノーベルファーマ株式会社

メラトニン受容体作動性入眠改善剤

処方箋医薬品<sup>(※1)</sup> 薬価基準収載

## メラトベル<sup>®</sup> 顆粒小児用 0.2%<sup>1)</sup>

メラトニン

製造販売元 ノーベルファーマ株式会社

胸膜癒着療法剤

処方箋医薬品<sup>(※1)</sup> 薬価基準収載

## ユニタルグ<sup>®</sup> 胸膜腔内注入用懸濁剤 4g<sup>1)</sup>

タルグ胸膜腔内注入用

製造販売元 ノーベルファーマ株式会社

結節性硬化症に伴う皮膚病変治療剤(mTOR阻害剤)

創薬、処方箋医薬品<sup>(※1)</sup> 薬価基準収載

## ラパリムス<sup>®</sup> ゲル 0.2%<sup>1)</sup>

シリロムス外用ゲル剤

製造販売元 ノーベルファーマ株式会社

mTOR阻害剤

創薬、処方箋医薬品<sup>(※1)</sup> 薬価基準収載

## ラパリムス<sup>®</sup> 錠 1mg<sup>1)</sup>

シリロムス錠

製造販売元 ノーベルファーマ株式会社

鼓膜穿孔治療剤

処方箋医薬品<sup>(※1)</sup> 薬価基準収載

## リティンパ<sup>®</sup> 耳科用 250 $\mu$ g セット<sup>1)</sup>

トラフェルミン(遺伝子組換え)製剤

製造販売元 ノーベルファーマ株式会社

月経困難症治療剤

処方箋医薬品<sup>(※1)</sup> 薬価基準収載

## ルナベル<sup>®</sup> 配合錠 LD<sup>3,4)</sup>

## ルナベル<sup>®</sup> 配合錠 ULD

ノルエチステロン・エチニルエストラジオール配合錠

販売元 日本新薬株式会社  
販売元 富士製薬工業株式会社  
製造販売元 ノーベルファーマ株式会社

未熟児無呼吸発作治療剤

処方箋医薬品<sup>(※1)</sup> 薬価基準収載

## レスピア<sup>®</sup> 静注・経口液 60mg<sup>1)</sup>

カフェインクエン酸塩注射液・経口液

製造販売元 ノーベルファーマ株式会社

甲状腺骨固定用器具

高度管理医療機器 特定保険医療材料

## チタンブリッジ<sup>®</sup> 1)

製造販売元 ノーベルファーマ株式会社

製造販売元 ノーベルファーマ株式会社

注1) 注意・医師等の処方箋により使用すること 注2) 注意・習慣性あり

※「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告・禁忌を含む注意事項等情報」については、電子添文をご参照ください。

資料 1) ノーベルファーマ株式会社 東京都中央区新川1-17-24 2) あすか製薬株式会社 東京都港区芝浦二丁目6番1号  
販売元 3) 日本新薬株式会社 京都市南区吉祥院西ノ庄門口町14 4) 富士製薬工業株式会社 富山県富山市水橋辻ヶ堂1515番地

ノーベルファーマ医療関係者向けサイト <https://nobelpark.jp>

2023年2月作成





Our  
Commitment  
to you

Better  
Infection  
Protection

# PROTECTING YOU



バイザー付きマスク



ヘッドウェア



ニトリル検査検診用グローブ



N95レスピレーター



アイソレーションガウン



薬剤耐性試験済グローブ<sup>\*1</sup>



シューカバー



薬剤耐性試験済ガウン<sup>\*2</sup>



## From Head To Toe

ハリヤードは個人防護具の提供を通じて医療推進に貢献します

<sup>\*1</sup> パーフルエクストラ ニトリルグローブ、ピングアンダーガードニトリルグローブは50種類以上の薬剤耐性試験済です (ASTM D6978-05)  
販売名: ニトリル検査検診用グローブ 一般医療機器届出番号: 13B1X10282GL0001

<sup>\*2</sup> ケモガウン360、コンフォート防水ガウンは50種類以上の薬剤耐性試験済です (ASTM F739-12)

製造販売元: O&M Halyard Japan 合同会社 〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-3 芝公園フロントタワー

製品に関するお問い合わせ TEL: 03-4565-4576 [www.halyardhealthcare.com](http://www.halyardhealthcare.com)

MK-0213-03



**Eisai**

*hbc*  
human health care

## 患者様の想いを見つめて、 薬は生まれる。

顕微鏡を覗く日も、薬をお届けする日も、見つめています。  
病気とたたかう人の、言葉にできない痛みや不安。生きることへの希望。  
私たちは、医師のように普段からお会いすることはできませんが、  
そのぶん、患者様の想いにまっすぐ向き合っていたいと思います。  
治療を続けるその人を、勇気づける存在であるために。  
病気を見つめるだけでなく、想いを見つめて、薬は生まれる。  
「ヒューマン・ヘルスケア」。それが、私たちの原点です。

ヒューマン・ヘルスケア企業 エーザイ

**AFUTUREPREOFLP**  
Global Alliance  
エーザイはWHOのリンパ系フィラリア病制圧活動を支援しています。



## 室内浮遊菌 ・ 浮遊ウイルスへの 対策

## イオンレス® (次亜塩素酸水) シーエルフアイン®

室内噴霧による  
浮遊菌除菌、浮遊ウイルス減少

付着菌除菌、付着ウイルスの減少

ドアノブ、手すり、壁や窓など  
手の触れるところに

(資料請求先)



**NIPRO**

販売

ニプロ株式会社  
大阪府摂津市千里丘新町3番26号

## 学会認定の「医療安全高度専門家」資格制度について

(2022年11月8日付)

**(概要)** 下記の全科目を受講し、当該認定試験に合格した日本医療安全推進学会の会員へ認定証を交付する。  
本制度は2022年11月より実施する。

**(目的)** 医療安全に特化した高度な資格制度によって医療安全高度専門家を育成し、医療安全文化をより高度にする。

**(対象者)** 臨床現場経験年数が10年以上有する全国の医師、歯科医師、看護師、薬剤師などの医療有資格者(事務職員は含まない)で、かつ日本医療安全推進学会の会員。

**(受講科目)** すべて必須科目。科目履修は医療安全概論から始めるのが望ましい。他の科目は順不同で構わない。ただし、同一科目名では基礎編⇒実践編の順とする。

(科目名)	(授業形式)	(実施日数)	認定試験の有無
医療安全概論 (基礎理論)	講義	連続する2日	無
医療安全基礎講座 (基本方法)	講義	連続する3日間	無
医療安全倫理・モラル研修会	講義	1日間	無
医療安全教育セミナー(実践編)	講義	連続する3日間	無
医療安全教育セミナー(ヒューマンファクター編)	講義/実習	連続する3日間	無
臨床安全コミュニケーター(基礎編)	講義/実習	連続する2日ないし3日間	有
臨床安全コミュニケーター(クライシスコミュニケーション編)	講義/実習	連続する2日間	有
チーム医療安全研修会	講義/実習	連続する2日間	有
医療事故調査セミナー	講義	連続する2日間	無
相談・コーチング・コンサルテーション研修会	講義/実習	連続する2日間	有
リスク分析・調査	講義/実習	連続する2日間	有
リスク情報安全学	講義	連続する2日間	無
感染症の医療安全	講義	連続する2日間	無
甚大災害の医療安全	講義	連続する2日間	無

- ・全科目を国際医療リスクマネジメント学会が主催し、日本医療安全推進学会は後援団体。
- ・学会認定の「医療安全高度専門家」資格を必要としない方は単一の科目を受講し、認定試験のある科目ではその受験ができる。

### (学会認定「医療安全高度専門家」資格の取得要件)

- ・資格申請者は日本医療安全推進学会の会員であること。
- ・学会認定の「医療安全高度専門家」資格制度の全科目を5年以内に取得すること。
- ・学会認定の「医療安全高度専門家」資格を希望する者は、すべての認定合格証をそろえて日本医療安全推進学会へ申請する。
- ・認定試験を行わない科目では、その受講終了証を以て認定合格書証の代わりとする。
- ・本資格申請時に申請費(1万円)を納付する。
- ・合格者へ資格認定書を発行します。

### (学会認定「医療安全高度専門家」資格の再認定の取得要件)

- ・資格認定の有効期間は資格取得後の5年間とする。
- ・再認定を希望する場合は、過去5年間にわたる日本医療安全推進学会学術総会参加証の写しを提出し、かつ活動歴の概要レポートを提出する。
- ・再認定の際には新たな科目を追加する場合がある。
- ・再認定時には申請費(1万円)を納付する。
- ・合格者へ資格認定書を発行します。

## 学会認定の「医薬品安全高度専門家」資格制度について

(2022年11月8日付)

本資格は医薬品安全管理業務を含みます。

**(概要)** 下記の全科目を受講し、当該認定試験に合格した日本医療安全推進学会の会員へ認定証を交付する。  
本制度は2022年11月より実施する。

**(目的)** 医薬品安全に特化した高度な資格制度によって医薬品安全高度専門家を育成し、医療安全文化をより高度にする。

**(対象者)** 臨床現場経験年数が10年以上有する全国の薬剤師で、かつ日本医療安全推進学会の会員。

### (受講科目)

(科目名)	(授業形式)	(実施日数)	認定試験の有無	備考
医療安全概論	講義	連続する2日間	無	
医療安全基礎講座	講義	連続する3日間	無	
医薬品安全管理研修会	講義	連続する2日間	無	
医療安全教育セミナー (事故原因分析編: ヒューマンファクターと リスクアセスメント)	講義/実習	連続する3日間	無	
臨床安全コミュニケーター(基礎編)	講義/実習	連続する2日間	有	
臨床安全コミュニケーター(クライシス編)	講義/実習	連続する2日間	有	
医療安全のための相談・コンサルテーション 講習会	講義/実習	連続する2日間	有	
医療安全情報処理教育セミナー	講義/実習	連続する2日間	有	
チーム医療研修会	講義/実習	連続する2日間	有	

・全科目を国際医療リスクマネジメント学会が主催し、日本医療安全推進学会は後援団体。

### (学会認定の「医薬品安全高度専門家」資格の取得要件)

- ・臨床現場経験年数が10年以上有することを証明する書類を提出すること。
- ・資格申請者は日本医療安全推進学会の会員であること。
- ・学会認定の「医薬品安全高度専門家」資格制度の全科目を4年以内に取得すること。
- ・学会認定の「医薬品安全高度専門家」資格を希望する者は、すべての認定合格証をそろえて日本医療安全推進学会へ申請する。
- ・認定試験を行わない科目では、その受講終了証を以て認定合格書証の代わりとする。
- ・本資格申請時に申請費(1万円)を納付する。
- ・合格者へ資格認定書を発行します。

### (学会認定の「医薬品安全高度専門家」資格の取得要件)

- ・資格認定の有効期間は資格取得後の5年間とする。
- ・再認定を希望する場合は、過去5年間にわたる日本医療安全推進学会学術総会参加証の写しを提出し、かつ医薬品安全活動歴の概要レポートを提出する。
- ・再認定には、過去5年間にわたる日本医療安全推進学会学術総会参加証の写しを提出し、かつ医療安全活動歴の概要レポートを提出する。
- ・再認定の際には新たな科目を追加する場合がある。
- ・再認定時には申請費(1万円)を納付する。
- ・合格者へ資格認定書を発行します。

## 学会認定の「看護安全高度専門家」資格制度について

(2022年11月8日付)

本資格は看護安全管理業務を含みます。

**(概要)** 下記の全科目を受講し、当該認定試験に合格した日本医療安全推進学会の会員へ認定証を交付する。  
本制度は2018年4月より実施する。

**(目的)** 看護安全に特化した高度な資格制度によって看護安全高度専門家を育成し、医療安全文化をより高度にする。

**(対象者)** 臨床現場経験年数が5年以上有する全国の看護師で、かつ日本医療安全推進学会の会員。

**(受講科目)** すべて必須科目。科目履修は順不同で構わない。

(科目名)	(授業形式)	(実施日数)	認定試験の有無	備考
医療安全概論	講義	連続する2日間	無	
医療安全基礎講座	講義	連続する3日間	無	
看護安全推進研修会	講義	1日	無	
医療安全倫理・モラル研修会	講義	1日	無	
臨床安全コミュニケーター(基礎編)	講義/実習	連続する2日間	有	
臨床安全コミュニケーター (クライシスコミュニケーション編)	講義/実習	連続する2日間	有	
医療安全のための相談・コンサルテーション講習会	講義/実習	連続する2日間	有	
チーム医療安全研修会	講義/実習	連続する2日間	有	

- ・全科目を国際医療リスクマネジメント学会が主催し、日本医療安全推進学会は後援団体。
- ・学会認定の「看護安全高度専門家」資格を必要としない方は単一の科目を受講し、認定試験のある科目ではその受験ができる。

### (学会認定の「看護安全高度専門家」資格の取得要件)

- ・臨床現場経験年数が5年以上有することを証明する医療機関発行の文書を提出すること。
- ・資格申請者は日本医療安全推進学会の会員であること。
- ・すべての科目でそれぞれの認定試験を受験し、合格していること。
- ・学会認定の「看護安全高度専門家」資格制度の全科目を4年以内に取得していること。
- ・学会認定の「看護安全高度専門家」資格を希望する者は、すべての認定合格証をそろえて日本医療安全推進学会へ申請する。
- ・認定試験を行わない科目では、その受講終了証を以て認定合格書証の代わりとする。
- ・本資格申請時に申請費(1万円)を納付する。
- ・合格者へ資格認定書を発行します。

### (学会認定の「看護安全高度専門家」資格の再認定の取得要件)

- ・資格認定の有効期間は資格取得後の4年間とする。
- ・再認定を希望する場合は、過去4年間にわたる日本医療安全推進学会学術総会参加証の写しを提出し、かつ看護安全活動歴の概要レポートを提出する。
- ・再認定には、過去4年間日本医療安全推進学会の会員である必要がある。
- ・再認定の際には新たな科目を追加する場合がある。
- ・再認定時には申請費(1万円)を納付する。
- ・合格者へ資格認定書を発行します。

## 各資格の申請方法

A) 申請に必要な資料書類(原本の場合はその写し)を用意する。

B) 申請費を下記口座へ振り込む。

銀行支店名: みずほ銀行 本郷支店 (075)  
ニホンイリョウアンゼンスイシニングカクイ  
口座名義: 日本医療安全推進学会  
番号: 普通 4203412

C) A)の資料と B)の振込控えを以下へ郵送する。

〒113-0033 東京都文京区本郷 4-7-12-102  
一般社団法人国際医療安全推進機構内  
日本医療安全推進学会

以上

# 医療安全推進

日本医療安全推進学会機関誌

(印字版) ISSN 2758-4402

<https://mspo.org/jsmsp/journal/index.html>

発行: 日本医療安全推進学会

「医療安全推進」編集事務局

日本医療安全推進学会本部内

(〒) 113-0033 東京都文京区本郷 4-7-12-102

(電子メール) [jsmspjournal@mspo.org](mailto:jsmspjournal@mspo.org)

## 機関誌「医療安全推進」刊行案内

一般社団法人医療安全推進機構(MSP0)は医療安全推進に関する諸課題の解決のために「日本医療安全推進学会」を設立しました。その学会機関誌として「医療安全推進」を刊行し、学会員の研究論文の蓄積を以て医療に貢献します。様々な関連分野の専門家から構成される編集委員を構成し、学会内部に蓄積します。

### 編集の方針

- 1) 投稿論文は査読審査の対象となります。
- 2) 発行は電子版のみにより行います。
- 3) 日本語論文のみを掲載します。英語論文の場合は国際医療リスクマネジメント学会機関誌「Journal of Medical Safety」への投稿をお願いいたします。
- 4) 氏名、所属、住所および英文の抄録を付けてください。

### 投稿規定

「医療安全推進」は日本医療安全推進学会における研究報告等を受け付ける。

その投稿は以下の規定による。

1. 投稿原稿は総説、原著論文、短報、その他とし、区分はつぎのものとする。
  - 1) 総説: 医療安全推進に関する諸問題を客観的な資料・考察に基づいて広い視点から論じたもの。
  - 2) 原著論文: 独創性のある理論的または実証的な研究で、完成度の高いもの。
  - 3) 短報: 独創性、緊急性のある萌芽的研究で、発展性の期待できる研究を手短にまとめたもの。短報は電子版「医療安全推進」誌にのみ掲載されます。
  - 4) その他: 症例報告(医療事故の治療経験など)・各医療機関でのベストプラクティス・トピックス・意見など、編集委員会で必要性を認めたもの。
2. 「医療安全推進」の原稿は邦文ないし英文とする。
3. 投稿論文は未発表・未掲載のものとする。他雑誌に掲載されたものを重複して投稿してはならない
4. ヒトおよび動物を対象にした研究論文は、1975年のヘルシンキ宣言(1989年改訂)の方針に従い、必要な手続きを踏まなければならない。ヘルシンキ宣言(1964年, 1975年, 1983年, 2003年改訂)、臨床研究に関する倫理指針(厚生労働省, 平成20年7月31日改正)、疫学研究に関する倫理指針(厚生労働省, 文部科学省, 平成20年12月改訂)、医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドラインなどの倫理的指針に従い、必要なものについては施設の倫理委員会、Institutional review board (IRB)の承認を得、その由を論文に記載する。さらに、「個人情報の保護に関する法律」(平成17年4月)などその時代に遵守すべき法令・省令を遵守する。症例報告などのプライバシー保護に関しては外科系学会協議会による「症例報告を含む医学論文及び学会研究会発表における患者プライバシー保護に関する指針」に従うこと。動物を用いた研究では、各施設の動物委員会などが定めた基準に従い慈愛深く取り扱い、このことを記載しなくてはならない。臨床試験は、臨床試験登録公開制度システム(UMIN-CTRなど)に登録する。ランダム化比較試験(randomized controlled trial; RCT)では、



CONSORT 声明に従う。また、科学研究として公平性・信頼性を確保するため、企業等との利益相反について明確にする必要がある。論文採用決定後は、「学会誌 (Palliative Care Research) 論文発表者の報告事項」に定める事項について「利益相反事項届出書 (学会誌発表者用)」の提出をしなければならない。

1. 投稿原稿の査読、採否および掲載順序などは編集委員会において決定し、編集委員長の名で著者に連絡する。
2. 原則として、投稿原稿は別に定める「執筆要項」に従った原稿によるものとし、和文原稿では英文の抄録ならびに英・和それぞれ5語前後のキーワードを原稿につける。
3. 投稿原稿は e-mail にて「医療安全推進」編集事務局に送付する。その際には、他雑誌に未発表・未投稿である旨を宣言した書面を沿えて、下記宛に送る。また、書面に総説、原著、短報、その他のいずれの категорияとして投稿するのかを明記すること。別途印刷物を編集事務局に2部送付する。
4. 掲載された原稿の著作権は日本医療安全推進学会に属する。  
但し、執筆者が使用する場合本会の許諾を必要としない。

#### 投稿先

「医療安全推進」編集事務局

日本医療安全推進学会本部内

(〒) 113-0033 東京都文京区本郷 4-7-12-102

(電子メール) [jmspjourn@mspo.org](mailto:jmspjourn@mspo.org)

## 原稿の執筆要領

1. 原稿はワープロソフトを用い、横書き、新かな使い、常用漢字の楷書で記載する。句読点および括弧は一字とする。投稿原稿の枚数は図表などを含めて刷り上がり8頁以内（1頁約2000字）とする。頁数を超過した場合には、超過分の費用を徴収する。ワープロソフトはWord等のWindows系のソフト、あるいはPDFファイルで送付すること。
2. 外国語の人名、地名、学名はタイプまたはブロック体で記載する。ただし、カタカナでもよい。
3. 和文抄録（400字以内）及び英文抄録（400語以内）を作成する。また、氏名、所属、連絡先を英文でも記載する。原著論文の場合には目的、対象と方法、結果、考察および結論として見出しをつけて記載すること。
4. 原稿の1頁目には、表題、著者名、所属機関名、別刷請求先、連絡先住所、表および図の数などを記載すること。
5. 図表は必要最小限にとどめること。図表は不都合なときには、使用ソフトなどについて編集委員会がその都度指示する。図説明文は別頁とする。
6. 本雑誌の単位符号は原則としてSI単位を用いる。（JISZ8203参照）  
例：1）長さ、面積、体積 km, m, cm, mm,  $\mu$ m, nm（特殊な分野では $\text{\AA}$ ）
7. 引用文献は引用順とし、末尾文献表の番号を両括弧数字で記す。  
雑誌の場合、全著者名.表題.雑誌名.年号：巻数：頁一頁、の順に記す。  
1）田島静,千々和勝己. 初夏に某小学校で発生した小型球形ウイルス（SRSV）による集団食中毒事例. 日本公衆衛生雑誌 2003：50：225-233.  
2）Adamson J, Hunt K, Ebrahim S. Socioeconomic position, occupational exposures, and gender: the relation with locomotor disability in early old age. J Epidemiol Community Health 2003;57: 453-455.  
単行本の場合、編・著者名. 書籍名. 所在地：発行所, 発行年：頁. の順に記す。  
引用頁は全般的な引用の場合には省略することができる。  
3）川上剛,藤本瞭一,矢野友三郎. ISO 労働安全・衛生マネジメント規格. 東京：日刊工業新聞社,1998.  
4）Detels R, McEwen J, Beaglehole R, Tanaka H. Oxford Textbook of Public Health. The Scope of Public Health. Fourth Edition. Oxford: Oxford University Press, 2002.  
5）川村治子. リスクマネジメント. 高野健人他編. 社会医学事典. 東京：朝倉書店. 2002:98-99.  
6）Detels R, Breslow. Current scope and concerns in public health. In: Detels R, McEwen J, Beaglehole R, Tanaka H. Oxford Textbook of Public Health. The Scope of Public Health. Fourth Edition. Oxford: Oxford University Press, 2002: 3-20.
8. 本文の最後に、別紙「利益に関する開示文書」に従って利益相反に関する開示事項を記載する。

## 「医療安全推進」編集委員会

(2025年1月8日付)

編集長

四柳 宏 (東京大学医科学研究所先端医療研究センター教授)

編集委員 (五十音順)

井上 都之 (岩手県立大学看護学部医療安全)

工藤 篤 (東京科学大学病院 医療安全管理部)

肥田 圭介 (岩手医科大学附属病院医療安全管理部)

田仲 浩平 (東京工科大学医療保健学部臨床工学科教授)

富田 隆 (国際医療福祉大学三田病院薬剤部)

中村 京太 (横浜市立大学附属市民総合医療センター医療の質・安全管理部)

(別紙) 利益に関する開示文書

医療安全推進機構会学会誌「医療安全推進」における利益相反の開示すべき項目

1. 産学連携活動に係る受け入れ額が、1企業あたり年間200万円以上(所属機関からの間接経費が差し引かれる前の金額)の場合
2. コンサルタント、指導、講演、給与としての個人収益が、1企業あたり年間100万円以上(税金や源泉徴収額を引く前の金額)の場合
3. 産学連携活動に係る個人収益(公開・未公開を問わず、当該企業の株式等の出資・取得・保有及び売却・譲渡、ストックオプションの権利譲受、もしくは、役員報酬、特許権使用料等)が1企業あたり年間100万円以上あった場合(但し、投資信託、もしくは、当該個人によって管理・制御できない多角的なファンドにおいて資金運用される場合を除く)
4. 上記1～3のいずれかに該当する企業に一親等の親族が現在勤務している場合  
該当しない場合には「医療安全推進機構会学会誌「医療安全推進」の定める利益相反に関する開示事項はありません。」と論文の末尾に記入する。

該当する場合には「医療安全推進機構会学会誌「医療安全推進」の定める利益相反に関する開示事項に則り開示します、(企業名)から(〇〇円).」と論文の末尾に記入する。

なお、個人収益の場合は、前年の1月1日から12月31日までとする。ただし、寄付金や企業からの受託等、産学連携活動に係る研究の場合は、前年4月1日から本年3月31日までの期間でも可とする。も可とする。

以上

日本医療安全推進学会のホームページ

<https://mspo.org/jsmsp/>

**第1回日本医療安全推進学会学術総会**

日本医療安全推進学会

一般社団法人国際医療安全推進機構内

〒113-0033 東京都文京区本郷 4-7-12-102

TEL: 03-6801-6922 FAX: 03-6801-6987

Email: [jsmspoffice@mspo.org](mailto:jsmspoffice@mspo.org)